

# 四半期報告書

(第19期第3四半期)

自 平成26年9月1日  
至 平成26年11月30日

株式会社イオンファンタジー

千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1

## 目 次

頁

表 紙

## 第一部 企業情報

## 第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移 .....	1
2 事業の内容 .....	2

## 第2 事業の状況

1 事業等のリスク .....	2
2 経営上の重要な契約等 .....	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 .....	2

## 第3 提出会社の状況

## 1 株式等の状況

(1) 株式の総数等 .....	4
(2) 新株予約権等の状況 .....	4
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 .....	4
(4) ライツプランの内容 .....	4
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移 .....	4
(6) 大株主の状況 .....	4
(7) 議決権の状況 .....	5

2 役員の状況 .....	5
---------------	---

## 第4 経理の状況 .....

## 1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表 .....	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	9
四半期連結損益計算書 .....	9
四半期連結包括利益計算書 .....	10

2 その他 .....	15
-------------	----

## 第二部 提出会社の保証会社等の情報 .....

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年1月14日
【四半期会計期間】	第19期第3四半期（自 平成26年9月1日 至 平成26年11月30日）
【会社名】	株式会社イオンファンタジー
【英訳名】	AEON Fantasy Co., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 片岡 尚
【本店の所在の場所】	千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
【電話番号】	043（212）6203（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 管理統括兼リスクマネジメント担当 新田 悟
【最寄りの連絡場所】	千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
【電話番号】	043（212）6203（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 管理統括兼リスクマネジメント担当 新田 悟
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第18期 第3四半期 連結累計期間	第19期 第3四半期 連結累計期間	第18期
会計期間	自平成25年3月1日 至平成25年11月30日	自平成26年3月1日 至平成26年11月30日	自平成25年3月1日 至平成26年2月28日
売上高 (千円)	34,656,795	34,104,396	46,541,813
経常利益 (千円)	1,904,909	2,338,857	2,645,188
四半期(当期)純利益 (千円)	843,030	852,561	1,117,341
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	981,501	940,336	1,423,283
純資産額 (千円)	20,177,008	21,023,175	20,618,702
総資産額 (千円)	28,549,783	29,336,838	27,978,480
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	46.48	46.99	61.60
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	46.33	46.82	61.40
自己資本比率 (%)	69.5	70.4	72.5

回次	第18期 第3四半期 連結会計期間	第19期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成25年9月1日 至平成25年11月30日	自平成26年9月1日 至平成26年11月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	1.15	0.23

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

## 2【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の連結子会社）は、フィリピン及びインドネシアに進出しました。これに伴い、当社は子会社が2社増加しました。

当第3四半期連結累計期間に設立した子会社は、次のとおりであります。

イオンファンタジーフィリピン（AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES INC.）

イオンファンタジーインドネシア（PT. AEON FANTASY INDONESIA）

この結果、平成26年11月30日現在、当社グループは、当社及び子会社6社により構成されることとなりました。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成26年3月1日～11月30日）は、国内外において積極出店を進めるとともに、国内事業を中心に仕入原価やコストの抜本的な見直しを行い利益確保に向けた取組みを進めてまいりました。また、平成26年12月に当社グループの店舗数が世界で500店舗を達成することを記念し、11月度に‘世界で500店舗達成’記念セールを実施いたしました。

#### （国内事業）

国内事業は、消費増税の吸収策として各種原価や販管費の削減を進め利益確保に努めるとともに、遊戯機械については海外調達拡大や、使用実態に合わせた耐用年数の見直しにより減価償却費の減少となりました。一方、新規出店については外部ディベロッパーやイオン系既存ショッピングセンターへの出店を進め、11月末で11店舗の直営店舗の出店を行いました。

これにより、国内事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は307億77百万円（前年同期比6.7%減）、営業利益は19億71百万円（同5.5%減）、経常利益は24億32百万円（同12.0%）、四半期純利益は12億6百万円（同18.2%増）となりました。

#### （海外事業）

海外事業については順調に店舗網を拡大し、損益改善が進んでおります。新規に中国18店舗（1月～9月）、マレーシア11店舗、タイ10店舗、フィリピン1店舗、カンボジア2店舗、ベトナム2店舗の合計44店舗を出店し、11月末現在の海外店舗数は157店舗となりました。

これにより、当第3四半期連結累計期間の海外事業の業績は、売上高33億58百万円（前年同期実績16億60百万円）、営業損失42百万円（前年同期営業損失2億78百万円）と大幅な損益改善となりました。

なお、海外事業はアセアンでの事業拡大に向け、5月にイオンファンタジーフィリピンを設立するとともに、11月にイオンファンタジーインドネシアを設立いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、国内事業が消費増税等の影響により減収となり341億4百万円（前年同期比1.6%減）でありましたが、海外事業の損益改善等により、営業利益は19億28百万円（同6.6%増）、経常利益は23億38百万円（同22.8%増）、四半期純利益は8億52百万円（同1.1%増）と増益となりました。

#### 財政状態の分析

##### （資産）

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、90億30百万円となり、前連結会計年度末に比べ22億8百万円減少いたしました。主な内訳は、当第3四半期会計期間末日が金融機関の休日のため、売上預け金のうち15億98百万円が翌営業日に決済されたことによる売上預け金の増加（23億10百万円）、新店及び既存店活性化投資に伴う資金需要の増加による関係会社寄託金の減少（60億円）であります。

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、203億6百万円となり、前連結会計年度末に比べ35億66百万円増加いたしました。主な内訳は、当社グループの新規出店及び既存店活性化に伴う遊戯機械の増加（24億80百万円）や店舗設備等への投資であります。

この結果、総資産は293億36百万円となり、前連結会計年度末に比べ13億58百万円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、79億33百万円となり、前連結会計年度末に比べ9億円増加いたしました。主な内訳は、地代家賃等の計上に伴う未払費用の増加(8億56百万円)であります。

この結果、負債合計は83億13百万円となり、前連結会計年度末に比べ9億53百万円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、210億23百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億4百万円増加いたしました。主な内訳は、四半期純利益の計上(8億52百万円)や剰余金の配当による減少(5億44百万円)であります。

経営成績の分析

(売上高)

売上高は341億4百万円となりました。その部門別内訳は、遊戯機械売上高263億40百万円、商品売上高74億75百万円、委託売上高1億26百万円、その他1億61百万円であります。海外は店舗数の拡大により大幅に増加しましたが、国内事業の売上減を吸収しきれず、前年同期より5億52百万円減少いたしました。

(売上原価)

売上原価は299億51百万円となり、前年同期より6億81百万円減少いたしました。遊戯機械の耐用年数見直しによる減価償却費の減少及び国内事業での消費税率の引き上げに対する積極的な売上原価削減策の実行によるものであります。

(販売費及び一般管理費)

販売費及び一般管理費は22億23百万円となり、前年同期より9百万円増加いたしました。

(営業外収益及び営業外費用)

営業外収益は5億7百万円となり、前年同期より3億66百万円増加いたしました。主な内訳は為替差益であります。営業外費用は97百万円となり、前年同期より52百万円増加いたしました。主な内訳は固定資産売却損であります。

(特別損失)

特別損失は3億73百万円となりました。主な内訳はのれん及び閉店の意思決定に伴う減損損失等の計上によるものであります。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年11月30日)	提出日現在発行数(株) (平成27年1月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	18,175,688	18,175,688	株式会社東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	18,175,688	18,175,688	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減 額(千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年9月1日～ 平成26年11月30日	—	18,175,688	—	1,747,139	—	1,650,139

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年8月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

①【発行済株式】

平成26年11月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 30,000	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 18,067,300	180,673	—
単元未満株式	普通株式 78,388	—	—
発行済株式総数	18,175,688	—	—
総株主の議決権	—	180,673	—

②【自己株式等】

平成26年11月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所 有株式数 (株)	他人名義所 有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総 数に対する所 有株式数の割 合(%)
株式会社イオンフ ァンタジー	千葉県美浜区中瀬 一丁目5番地1	30,000		30,000	0.17
計	—	30,000		30,000	0.17

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出後、当四半期報告書提出日までにおいて、役員の異動は次の通りです。

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
取締役	営業統括 本部長	取締役	営業統括 兼 新規事業開発本部 本部長	田村 純宏	平成25年9月1日
取締役	アセアン事業責任者	取締役	グローバル事業推進本部 本部長	梶田 茂	平成25年9月1日

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成26年9月1日から平成26年11月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年3月1日から平成26年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,246,115	3,580,858
売上預け金	※1 101,669	※1, ※2 2,412,413
たな卸資産	1,053,891	1,520,905
関係会社寄託金	※3 6,000,000	—
その他	836,828	1,515,851
流動資産合計	11,238,505	9,030,029
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,384,125	3,197,326
遊戯機械（純額）	9,355,109	11,835,394
その他（純額）	1,150,748	1,396,798
有形固定資産合計	12,889,983	16,429,519
無形固定資産		
のれん	824,230	411,645
その他	124,649	312,601
無形固定資産合計	948,880	724,247
投資その他の資産		
敷金及び差入保証金	2,174,925	2,367,048
その他	※4 726,186	※4 785,994
投資その他の資産合計	2,901,111	3,153,042
固定資産合計	16,739,975	20,306,809
資産合計	27,978,480	29,336,838
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	994,840	972,619
未払費用	850,116	1,706,655
未払法人税等	1,231,791	918,781
賞与引当金	205,231	365,746
役員業績報酬引当金	25,778	31,955
閉店損失引当金	10,956	11,816
設備関係支払手形	1,867,704	1,879,930
その他	1,846,010	2,045,860
流動負債合計	7,032,430	7,933,364
固定負債		
退職給付引当金	32,019	40,327
資産除去債務	220,310	233,808
その他	75,018	106,161
固定負債合計	327,347	380,297
負債合計	7,359,778	8,313,662

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,747,139	1,747,139
資本剰余金	1,709,697	1,704,917
利益剰余金	16,358,418	16,666,697
自己株式	△57,270	△48,185
株主資本合計	19,757,983	20,070,568
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15,592	26,132
為替換算調整勘定	505,267	546,849
その他の包括利益累計額合計	520,860	572,982
新株予約権	66,142	70,256
少数株主持分	273,715	309,368
純資産合計	20,618,702	21,023,175
負債純資産合計	27,978,480	29,336,838

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日)
売上高	34,656,795	34,104,396
売上原価	30,633,725	29,951,829
売上総利益	4,023,069	4,152,567
販売費及び一般管理費	2,214,248	2,223,774
営業利益	1,808,820	1,928,793
営業外収益		
受取利息	10,984	10,428
為替差益	91,040	472,703
機械仕入割戻	14,164	2,567
固定資産売却益	8,471	4,256
その他	16,927	17,746
営業外収益合計	141,588	507,702
営業外費用		
固定資産売却損	35,314	74,937
その他	10,184	22,701
営業外費用合計	45,499	97,638
経常利益	1,904,909	2,338,857
特別損失		
閉店損失引当金繰入額	8,480	11,816
減損損失	32,695	※1 318,280
店舗閉鎖損失	19,437	43,103
特別損失合計	60,612	373,200
税金等調整前四半期純利益	1,844,296	1,965,657
法人税、住民税及び事業税	1,007,247	1,435,870
法人税等調整額	△5,115	△322,712
法人税等合計	1,002,132	1,113,157
少数株主損益調整前四半期純利益	842,163	852,499
少数株主損失(△)	△867	△62
四半期純利益	843,030	852,561

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	842,163	852,499
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,411	10,539
為替換算調整勘定	132,925	77,297
その他の包括利益合計	139,337	87,837
四半期包括利益	981,501	940,336
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	966,516	904,682
少数株主に係る四半期包括利益	14,984	35,653

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(1) 連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、新たに設立したイオンファンタジーフィリピン (AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES INC.) を連結の範囲に含めております。また、当第3四半期連結会計期間より、新たに設立したイオンファンタジーインドネシア (PT. AEON FANTASY INDONESIA) を連結の範囲に含めております。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

(耐用年数の変更)

従来より、当社及び連結子会社が保有する有形固定資産の遊戯機械の耐用年数については、各資産の使用実態を勘案して2～6年の範囲内で減価償却を行ってまいりましたが、当連結会計年度から開始する中期経営計画におけるオリジナル遊戯機械等導入方針に基づき使用期間を見直した結果、一部の遊戯機械について従来の耐用年数よりも長期間使用する見込であることが明らかとなったため、耐用年数の範囲を2～9年に変更しております。

また、遊戯機械の耐用年数の変更を契機に、当社が保有する有形固定資産の残存価額について見直しを行った結果、当連結会計年度より備忘価額に変更しております。

この変更に伴い、従来の方法に比較して、当第3四半期連結累計期間の減価償却費が1,079,873千円減少し、営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益が同額増加しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1. 売上預け金

ショッピングセンターの店舗賃貸人に預けている売上代金であります。

※2. 四半期連結会計期間末日が休日のため増加した主な資産

当第3四半期連結会計期間の末日が金融機関の休日のため、下記の科目に含まれている翌営業日に決済される金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
売上預け金	一千円	1,598,453千円

※3. 関係会社寄託金

余裕資金の有効活用を目的としてイオン株式会社との間で金銭消費寄託契約を締結しており、当該契約による寄託金であります。

※4. 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
投資その他の資産	2,702千円	2,702千円

(四半期連結損益計算書関係)

※1. 減損損失

当第3四半期連結累計期間において、以下の資産グループにおいて減損損失を計上しております。

①減損損失を認識した資産グループの概要

用途	種類	地域	店舗数	金額(千円)
店舗	建物等	国内	16	20,979
	のれん	国内	—	297,301
合計			16	318,280

②減損損失の認識に至った経緯

当第3四半期連結累計期間において、営業活動から生ずるキャッシュ・フローが継続してマイナス又は継続してマイナスとなる見込みである資産グループ及び閉店の意思決定を行った資産グループについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

また、のれんについては、株式会社マイカルクリエイトの株式取得時に想定していた収益が見込めなくなったことから、減損損失を認識いたしました。

③減損損失の金額及び主な固定資産の種類ごとの当該金額の内訳

種類	金額(千円)
建物	20,761
有形固定資産その他	218
のれん	297,301
合計	318,280

④資産のグルーピングの方法

当社グループは事業用資産について、主として店舗を基本単位としてグルーピングしております。

⑤回収可能価額の算定方法

当社グループは資産グループの回収可能価額は使用価値又は正味売却価額により算定しております。使用価値については、将来キャッシュ・フローを5.6%の割引率で割り引いて算定しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)
減価償却費	3,477,691千円	3,176,841千円
のれんの償却額	209,349	160,414

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)

1. 配当金支払額

平成25年4月16日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

① 配当金の総額	544,017千円
② 1株当たり配当額	30円
③ 基準日	平成25年2月28日
④ 効力発生日	平成25年5月8日
⑤ 配当の原資	利益剰余金

平成25年10月2日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

① 配当金の総額	272,078千円
② 1株当たり配当額	15円
③ 基準日	平成25年8月31日
④ 効力発生日	平成25年10月30日
⑤ 配当の原資	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)

1. 配当金支払額

平成26年4月8日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

① 配当金の総額	272,098千円
② 1株当たり配当額	15円
③ 基準日	平成26年2月28日
④ 効力発生日	平成26年5月2日
⑤ 配当の原資	利益剰余金

平成26年10月3日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

① 配当金の総額	272,183千円
② 1株当たり配当額	15円
③ 基準日	平成26年8月31日
④ 効力発生日	平成26年10月30日
⑤ 配当の原資	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	国内	海外	計		
売上高					
外部顧客への売上高	32,996,458	1,660,336	34,656,795	—	34,656,795
セグメント間の内部売上高 又は振替高	25,044	—	25,044	△25,044	—
計	33,021,503	1,660,336	34,681,839	△25,044	34,656,795
セグメント利益又は損失(△)	2,087,317	△278,497	1,808,820	—	1,808,820

(注) 1. 調整額は、セグメント間取引消去によるものであります。

2. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	国内	海外	計		
売上高					
外部顧客への売上高	30,745,765	3,358,631	34,104,396	—	34,104,396
セグメント間の内部売上高 又は振替高	31,456	—	31,456	△31,456	—
計	30,777,222	3,358,631	34,135,853	△31,456	34,104,396
セグメント利益又は損失(△)	1,971,666	△42,873	1,928,793	—	1,928,793

(注) 1. 調整額は、セグメント間取引消去によるものであります。

2. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(耐用年数の変更)

「会計上の見積りの変更」に記載のとおり、当社及び連結子会社は、一部の遊戯機械の耐用年数を変更し、また当社が保有する有形固定資産の残存価額について見直しを行いました。

この変更により、当第3四半期連結累計期間の「国内」のセグメント利益は918,545千円増加し、「海外」のセグメント損失は161,328千円減少しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期累計期間に、「国内」セグメントにおいて、318,280千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期累計期間に、「国内」セグメントにおいて、のれんの減損を行ったことにより、のれんの金額に重要な変動が生じております。

当該事象によるのれんの減少額は、297,301千円であります。

なお、上記(固定資産に係る重要な減損損失)の中に当のれんの減損も含めて記載しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	46円48銭	46円99銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	843,030	852,561
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	843,030	852,561
普通株式の期中平均株式数(株)	18,138,106	18,142,917
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	46円33銭	46円82銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	60,029	65,074
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

(剰余金の配当)

第19期(平成26年3月1日から平成27年2月28日まで)中間配当については、平成26年10月3日に、平成26年8月31日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを取締役会決議しました。

- |                       |             |
|-----------------------|-------------|
| (1) 配当金の総額            | 272,183千円   |
| (2) 1株当たりの金額          | 15円00銭      |
| (3) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 | 平成26年10月30日 |

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年1月6日

株式会社イオンファンタジー

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	渡辺 雅子	印
--------------------	-------	-------	---

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	杉本 健太郎	印
--------------------	-------	--------	---

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社イオンファンタジーの平成26年3月1日から平成27年2月28日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成26年9月1日から平成26年11月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年3月1日から平成26年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

**四半期連結財務諸表に対する経営者の責任**

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

**監査人の責任**

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

**監査人の結論**

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社イオンファンタジー及び連結子会社の平成26年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

**強調事項**

会計上の見積りの変更に記載されているとおり、会社は第1四半期連結会計期間より遊戯機械の耐用年数及び有形固定資産の残存価額を変更している。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

**利害関係**

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年1月14日
【会社名】	株式会社イオンファンタジー
【英訳名】	AEON Fantasy Co., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 片岡 尚
【最高財務責任者の役職氏名】	常務取締役 管理統括兼リスクマネジメント担当 新田 悟
【本店の所在の場所】	千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役片岡尚及び常務取締役管理統括兼リスクマネジメント担当新田悟は、当社の第19期第3四半期（自平成26年9月1日 至平成26年11月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。